不発弾

志村　良知

先日、宮崎空港の海岸に近い誘導路で、突然に大爆発が起き、先の大戦中に落とされた米軍の２５０キロ爆弾の不発弾だったと報道された。

不発弾とは、作動すべき時に信管が炸裂しなかった爆弾ないし砲弾のことで、投下前の爆弾と違って信管の安全装置は全て解除されているので非常に危険である。爆弾本体の軍用爆薬は極めて鈍感で、飛行機から落としても信管が作動しなければ爆発しない。

作動しなかった信管は年月が経っても生きていて、今回は８０年経って後突然炸裂した。１１０年前、独仏の間で猛烈な攻防戦が行われたヴェルダンの要塞跡は観光用の通路が厳格に決められており、そこから外れると不発弾や地雷で命の危険があることの警告が至るところにある。

爆弾や砲弾は信管無しで使用する現場に輸送される。そして爆弾なら航空機に搭載時、砲弾なら装填時に目的に応じた種類の信管が取り付けられる。信管には、時限、遅延、瞬発、近接など色々な種類があり、複数の安全装置が掛かっている。そして榴弾砲などの砲弾は発射時の加速度やスピンなどで、また迫撃砲弾や爆弾は発射時や落下時の気流で最後の安全装置が解除される。信管は安全と作動において限りなく１００％に近い信頼性が要求される精密機器で非常に高価である。

私は、第一次、第二次の二つの大戦の戦場になったアルザスに住んでいた事があるが、不発弾や地雷の事故という二ュースは聞かなかった。地雷や不発砲弾は処理済だと聞かされており、アルザスの西にあるボージュ山脈も激しい戦闘が行われ、地雷も無数に埋設されたであろうが、ハイキングやキノコ狩りで自由にどこでも入って行けた。

１９４５年冬のアルザス解放戦闘は非常な悪天候の中で行われ、悪名高い米陸軍航空隊は陸上に留められ、爆弾をぼかぼかと落とせなかったことも幸いしたかもしれない。

現代でも２ｍより深く埋まっている不発弾を見つけるのは困難だそうである。猛爆撃を受けた東京も安全ではない。